

下村委員ヒアリング内容

【論点1 ビジョンの中間報告(案)について】

●ありたいまちの姿(まちづくりの目標)(p15)における「スマート農林水産業」等について

- ・有機農業のシェアについて、国は世界先進の欧州(約14%)と比較してもかなり意欲的な目標値として2050年までに25%にすることを目指している。その方針の一方で有機農業は手間がかかるため、そこにスマート技術を入れていくとよいのではないか。中山間地域での有機農業は、地域のイメージに合致するほか、環境保全にも寄与し、水もきれいになる。
- ・中山間地域が衰退すると、根本的に環境が崩れ、平地部の農業、漁業にも影響が出ることから、全市的な問題との認識が必要。中山間地域を支えるためのスマート技術の実装が求められる。
- ・若い新規就農者は、農業だけでなく、民泊や観光と絡めるなど複合的なビジネスとして捉えている。行政も農業単独で活性化を考えるのではなく、他の産業分野と関連づけて捉える視点が必要である。

●ありたいまちの姿(まちづくりの目標)(p15)における「地域の資源」等について

- ・伝統文化こそイノベーションが必要。ライフスタイルの変化に合わせて変えるべきは変えていく柔軟性がなければ、個人の熱意に頼るだけでは、そのうち継承者がいなくなる。
- ・美しい景観を保全するには、地域の人たちが保全することの重要性を認識できる象徴的なものが必要である(アートとの連携等)。

【論点2 検討プロセスにおける課題感について】

●データの利活用について

- ・データを蓄積することは重要で、早い段階から蓄積をはじめた方がよい。どのようなデータが必要なのかの議論を先行させ、技術が追い付いてからデータ収集を始めてもよい。

●新技術との接点について

- ・日進月歩の技術にキャッチアップするためには、一流の人材を推進体制に組み込むことが早道である。

●デジタル人材育成について

- ・人材育成の面では、若い人がチャレンジするマインドをもっていること、チャレンジできる環境が富山にあることが重要である。そうでないと、優秀な人は海外に流出するのではないか。

【その他】

- ・長期的な視点に立つと水資源は大変重要であり、水資源が枯渇すれば生活に大きく影響する。海外では水資源の争奪が始まっており、富山でも気づいたら水源地を外資に押さえられているということが起こりうる。水資源を管理し、アラート情報を把握するなどの仕組みが重要である。